

公開講演 開催報告
『「よりどころ」の形成史』—著者による講演会—

東北大学国際文化研究会 主催

日本国際文化学会 共催

2024年2月26日(月)の13時30分から15時30分まで東北大学大学院国際文化研究科棟1階101号室において、月野楓子氏(沖縄国際大学総合文化学部社会文化学科准教授)をお招きし、「公開講演『「よりどころ」の形成史』—著者による講演会—」を開催した。運営は小山あゆみ、王霄漢、阿部純(東北大学大学院国際文化研究科博士後期課程)が行い、当日の司会を小山が務めた。

「開会の辞」では、阿部が本講演の主催である東北大学国際文化研究会の紹介と、本講演の開催に至った経緯および趣旨を説明した。

続いて、月野氏の講演が行われた。講演では、月野氏の著書『「よりどころ」の形成史—アルゼンチンの沖縄移民社会と在亜沖縄県人連合会の設立—』の内容を中心に、太平洋戦争前後の背景を踏まえながら、アルゼンチンにおける沖縄移民の生活や組織形成に関する解説がなされた。また「よりどころ」という表現を採用するに至った経緯や、フィールドワークを行う中で直面した問題についても話された。

質疑応答では、世界のウチナンチュ大会、ディアスポラという概念の適用可能性、沖縄移民に対する皇民化教育の影響、研究者と当事者の距離感、モノの移動に関する研究等について、多くの質問が寄せられた。さらにフィールドワークに関しても活発なやり取りが交わされた。

最後の「閉会の辞」では、高橋梓氏(近畿大学法学部教養・基礎教育部門准教授)が、堀辰雄や「動詞としての文化」とも関連付けながら講演内容を振り返った。また、何かに「よりかかる」ことで生きてゆけるというアルゼンチン沖縄移民の心理・経験は、コロナ禍を経験した令和の今だからこそ考えるべき重要なテーマであると述べた。

アルゼンチン沖縄移民と「よりどころ」をめぐる会場の白熱した議論は、今後の国際文化学の発展に寄与すると思われる。最後に、今回の講演会開催を助成された日本国際文化学会に対して深く感謝の意を表する次第である。

(小山あゆみ・王霄漢)